



陽気だより

No92

2014.11.15

●ホームページからも「陽気だより」
最新号・バックナンバーをご覧いただけます

<http://yotokusha.com/>

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和38年3月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で65年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

天理高校ラグビー

(昭和三十八年一月九日)

全国制覇の瞬間

陽気編集部

優勝の瞬間

この日の花園ラグビー場は、前日の雪まじりの雨でぬかるんでいた。

若い三十名の選手は、互いに肉体と肉体をぶつけ合う必死のタックルの応酬で、すでに泥んこだった。タイトスクラム、ルーズがつづき、ようやくオープンにまわったボールも思うように手につかず、両チームとも悪戦苦闘をつづけた。得点は僅差。息詰まる激戦のうちに試合終了の時間が刻々と迫った。

二時五十五分、タイムアップのホイッスルが鳴った。一瞬、スタンドは総立ち。割れるような拍手がこだました。狂喜した歓声の中に、勝った、勝ったという言葉だけが聞きとれた。

昭和三十八年一月九日、第四十二回全国高校ラグビー大

会決勝戦で天理高校ラグビー部は北海道の雄北見北斗高校を八対三で破り、実に二十七年ぶりで二度目の全国制覇の宿願をなしとげたのであった。

選手たちは健闘をたたえる拍手と歓声に迎えられて引き上げてくると、泣きながら藤田コーチ、阪本監督を胴上げした。いつのまにか天理OBや関係者が選手たちを囲んでいた。二十七年前の優勝経験者の顔も見えた。みんな、こわばった表情で真一文字に口を閉じたまま、ただ突っ立っているだけだった。かすかに口元を震わせているその顔は、怒っているようにも見えた。

「おめでとう、よくやってくれた」と言いたいのであろうが、言葉にならなかった。二十七年間待ちつづけた宿願がようやくかなえられた、かなえてくれた、その感激で選手とともに泣いているのだった。

優勝の実感がこの時になって、はじめてジワジワと各人の胸に巻き起こりはじめていた。

チームづくりの苦労

終戦後、天理高校ラグビー部が復興したのは、食糧難の厳しい昭和二十二年だった。過去、優勝一回、準優勝二回の輝かしい記録を持つ天理にとって、名門の名にふさわしいチームづくりに入るには、あまりに苛酷な時代だった。しかしその頃、早くも大阪の名門、天王寺高校、北野高校は、本格的な練習を積んでいた。天理の面目にかけても遅れを取り戻そうと、OBたちはやっきになった。

天理ラグビーOBクラブ会長・土佐忠敏(表統領)は、その頃を回想して「走れ走れと選手たちにハッパをかけるんだが、本気で走る者がいない。朝昼兼用のおかゆ腹では、言う方が無理だった」部員の大半が寮生であったので、もちろんヤミ米などにありつけようはずはない。ヘビヤカエルが栄養源だった。こんな状態で対抗試合をしても見ている方がつらかった。選手は敵のタックルにかかれば、一

も二もなくその場に縮んでしまった。ある時、観戦された真柱が「これがラグビーか」と、そのひ弱さを嘆かれたというほどだった。

ひとまず二部から身体の大きい者やシーズン明けの柔道、野球選手を借りてきて、その腕力と脚力だけにたよるほかなかった。

一手一つの勝利

こうしたチームづくりの苦労も、阪本氏を監督に迎えた昭和二十五年からポツポツ解消していった。

その頃、全国大会は近畿で二校しか出場権が与えられなかったが、早くも二年後の昭和二十七年に東近畿代表に選ばれ、以後、三十年をのぞいて、連続出場をするようになって、だが一回戦で敗退、よくいって二回戦までという鳴かず飛ばずの成績が三十六年までつづいた。

しかし、その間、真柱の励ましをはじめ喜多校長の蔭の尽力で、ラグビー部の悲願達成へ全校が盛り上がってきた。昭和三十五年には一年生が大量三十名も入部し、チームの

大型化に希望がもてた。また、第二ラグビー場が建設され、これで全国制覇への基礎がためは完了した。天理三年計画と騒がれはじめたのもこの頃だった。

奮起したラグビー部は、夏の休みを返上、早いときは朝づとめ前の四時からライトをつけて猛練習した。松本の自衛隊での合宿、大宿での日大との合同合宿など、若手OBの藤田、松隈両コーチのもと、血尿が出るまでに鍛えられた。遠征ではA級チームと対戦、そのたびに一歩々々実力を上げた。一方では天理ラグビーOBクラブの面々が、部費で足りない資金集めに奔走した。

一丸となった天理高ラグビー部の前に敵はなかった。三十七年大会では準優勝の京王高と準々で対戦、0対0の抽選負けをしたものの優勝候補の筆頭と噂された強敵と互角にわたった自信は大きかった。それ以来、破竹の勢いで、秋の国体でのBブロック優勝をはじめ、年間三十戦連勝の大記録をうちたてたのであった。そしてついに三十八年の新春、待望久しい全国制覇が実現し

たのである。

スタンドの清掃ひのきしん

花園ラグビー場のスタンドには、もう人影はなかった。曇り空がたれさがり、激戦で荒れたグラウンドを暗くしていた。この中で三十数人の男女天理高生が一同となって竹ボウキでスタンドの清掃に励んでいた。これは大会最終のこの日にそなえて自主的に組まれたひのきしん隊だった。た

んねんに清掃をすませたこの学生たちは、待機している七台の天理応援団バスの方へ急いで引き上げていった。

栄光への道、それには並々ならぬ辛苦がつきまとった。しかし、監督、コーチ、選手一体となった技の研磨、猛練習に耐える精神力はもとより、こうした全校あげて一手一つの心のつながりがあってこそ、優勝への大道が開かれたのであった。

好評発売中

マンガ おびや許し

「おびや許し」をいただく方に。



作画…金巻とよし
脚本…山岡美秀

A5判 28ページ フルカラー 定価=200円+税

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388
TEL0743-62-4503 FAX0743-63-8077

『陽気』 定期購読



【定期購読料金】
1年分…3,420円
(送料込)

お 店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入するのを忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。(例：12月号は11月20日ごろ)

購読に関する問合せ先 ☎0120-920-398 養徳社 業務部窓口

Facebook で最新情報をチェック! <https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。
<書籍・陽気のご購入方法について>前払いをお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名(株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部